

所 管 事 務 調 査 報 告 書

平成31年3月5日

洞爺湖町議会議長 佐々木 良 一 様

総務常任委員会
委員長 立 野 広 志

本委員会は、所管事務調査のため、次のとおり委員会を開催したので、その結果を報告します。

記

○所管事務調査

- 1 調査事項 「つどいお茶の間の会」の活動内容について
- 2 調 査 日 平成31年1月21日（月）
- 3 出席委員 立野委員長、千葉副委員長、越前谷委員、竹林委員、今野委員、五十嵐委員
- 4 説明員等 つどいお茶の間の会 毛利 田紀氏、鈴木 孝氏、佐藤 敏雄氏、天野 愛子氏
洞爺湖町社会福祉協議会 佐藤 玲子氏

5 調査内容

社会福祉協議会は、ふれあい・いきいきサロン活動を推奨し、自治会連合会においてサロン活動に関する研修視察も行うなど、さまざまにサロン活動の周知と実践活動を行ってきました。

現在では、町内13箇所でサロンが立ち上がり、自主運営により自由でそれぞれに特徴のある活動を行っています。

当委員会は、洞爺地区で自治会の枠にとらわれず活動が続けている『つどいお茶の間の会』の運営をされている5名の方々からお話を伺った。

「つどいお茶の間の会」は、平成26年12月から開催し、お年寄りだけでなく、どなたでもおしゃべりできる場として始められました。最初は、参加者が1名から2名ほどでしたが、「あわてず、いそがず、やっといこう」と継続するうちに、冬場は15名ほど（夏場は18名）と参加者が増え、遠くは大原地区の方も参加しています。

参加者の最高齢者は93歳で、若い方で60歳です。男性7名、女性20名ほどで、延べ30名ほどになります。耳や足腰が不自由な方もいますが、来ること

を楽しみにされている方ばかりです。

次のような活動内容となっています。

- ・実施は月2回（6日と26日）の午前中（9時から12時）
- ・開催日は、洞爺地区の「支所だより」により周知されます。
- ・参加者同士の懇談が中心ですが、「来て何かしよう」というのではなく、「それぞれが好きなことをしよう」ということで、折り紙、おしゃべり、ゲーム、軽スポーツなど自由で縛りのないのが特徴です。好きな遊びを通じて、元気に通えるようになった方もいます。
- ・年に1回は町のバスを利用し、野外活動を実施しています。去年はニセコまでバス旅行を楽しみました。
- ・決まり事については、いろいろと制限があると運営が大変になり、続かないことから、とにかく縛りをなくした中で運営を続けています。
- ・約束事として、昼食やおやつは持って来られない方のことも考え、「持つてこない」、また「人の悪口は言わない」といった最低限のもののみです。

現在の課題として、新たな参加者が少なくなっていること。何か始めるにしても町ではどんな物品の貸し出しができるのか分からないこと、などがあげられました。

6 委員会のまとめ

長年にわたってボランティアの方々が、どうしたら気軽に参加できるのか工夫されながら運営されてきたことで、無理なく、楽しく、和気あいあいとしたサロンとなっていることが伺えます。

運営されている方からは「何もやっていない、苦労していない」と話されていましたが、自らも楽しめる活動に努力し、継続した運営に努力されていることに深い感銘を受けました。

参加者が固定化し、新しく参加される方が少なくなっているとの説明もあり、どの地域のサロン活動にも共通する課題であることから、町の広報などを通じて定期的に各地のサロン活動の開催日や内容を紹介するなど、情報提供の機会を増やすことが必要と考えられる。また、ゲームや軽スポーツなど、町が貸し出しできる機材のリストを整理し、利用を促す対応も求められます。